



### そのとき、 感じたこと & 思ったこと

とても楽しめました。干潟へいったのは初めてで、テレビで見る以外見たことがなかったので良かったです。もともと環境について興味があったので、講演も真剣に聞き、また、教授の説明も分かりやすかったです。しかも、

裸足でどろの上を歩き、じかにカニやエビをさわることができました。ふだんあまりやらないことができ、いい体験をしたと思いました。見た目では分からなかった干潟の深刻な問題を知り、これからの私達のゴミについての考え方を見直す必要があると思いました。今回の体験は、総合科目をとっているからこそできたからで、これからもこのようないい体験ができるとうれしいです。

藤前干潟にきたのは初めてで、こんな痛いところだとは思わなかった。海が干いて行くところをゆっくり眺められたのも初めて。少し嬉しかった。泥に触れ、小魚に触れ、かにかを掴まえて、思いがけず話したこともない人と話ができて楽しかった。親子で遊びに来ている人達もいて、私は岐阜県民であまりこういう体験はできなくて、こういう場所はなくなって欲しくないと思ってしまう。人間が増え、人間にとって便利な環境をつくるにつれ、生命の環境が壊れていっているわけで、ささいな事でも、環境保全の為に続けていきたいと思う。また自然と遊びたい。

今日は藤前干潟が見れるという事で楽しみにしていたけれど、来てよかったと思う。泥の上を歩いていると、ハゼ? かなにかの稚魚がたくさんいるし、カニも歩いていたし、また鳥が何羽も飛んでいたりと、いろいろな生き物がいて自然が豊かだいいなあと思いました。

また、寺井先生の藤前干潟の浄化能力に関する説明や、干潟の生き物がいかにして

話はとても興味深く参考になりました。どういう原理で海が汚れていくのかもよく分かったのでとても良かったです。今日は、生き物や自然の仕組みを聞き、それを自分の目で見たという点ですごく有意義でおもしろかったです。教室の内では絶対にできないことなので、今日の授業はとても良かったです。



はじめて、干潟に来て先生の話聞いて藤前干潟の浄化能力についてしることができた。実際に干潟に裸足で入ると気持ちよく、穴がたくさんあいていて、掘るとジャコがいたり、かにかにも実際に見つけることができ、シジミ、アサリもけっこういた。鳥の話もおじさんとできた。普通に暮らしていて、こういうところへくる機会というのはないと思うけど、今日来てみて、いがいにも楽しくもあり、少し干潟も考えることができた。

6月の満月の日の名古屋市藤前干潟の湿地調査に来た。今日は天気が良い。涼しい。所で寺井久慈先生の野外講義を聞いた。驚きようにびっくりした。こんな弾丸之地に名古屋市および中部日本にこんなに環境にやさしく影響を当たられるかなと思います。世界の湿地に指定された藤前干潟は何数種類の生物、動物が住んでいる。また、干潟の生物、動物によって名古屋市内にきれいな空気、或いは自然の物をそのまま表せて人類は幸せなことだと思ふ。寺井先生の努力で今、藤前干潟の環境はだんだんやさしくなると、湿地生物研究に役に立つ経験を保つと思う。干潟の影響は環境にすくなくない。今からもこんな社会が多い方がいいだと思ふ。

私はインドネシアから来ました。インドネシアでは環境に対して、あつかいかたがまだ悪いので、今回、こういう活動さんかを通じて「日本人がしぜんを大切にす」とは私インドネシア人として学ぶべきです。さんかしてよかったです。

藤前干潟は鳥の為、保全されたとの報道がされていましたが、じっさい来てみて、鳥だけの為でなく干潟に生きている生態系そのものが重要なのだということが来てよくわかりました。また、調査という言葉だけでどのような調査が行われたかどうかというのはあまり知られていませんが、調査の質というものがいかに重要かということもよくわかりました。来てよかったと思います。はたで見ているとただ遊んでいるだけにしか見えなかったと思います(笑)。

学外活動ということで参加人数は少なかったものの、その分、講師の方と近くで話げできた。藤前干潟の現状、今でもまだ危機が去ったわけでは無いという事、砂じゃなく泥の干潟である事の違ひなど。

結局、自然の形を変えていくのは人間なのだ。川をせき止め、上流からの土がこなくなったので、砂浜まで流れていた土が来なくなって砂浜がへっているという渥美半島の話思い出した。そうやって変化していく自然がそうじて悪くなっているという点で、やはり人間はまだ自然のことを気にして生きていないのだと思ふ。現状をもっと知って、もっと伝えて、それを意識して生きないと思ふ。私はどう伝えられるだろうか。干潟を実際に歩いてみてそれを感じ、生きものが無数にいるのを見られてよかった。

写真提供: 鶴田正道教授(中部大学国際関係学部人文社会教室)

講師: 寺井久慈教授(中部大学応用生物学部環境生物科学科)